



光の子だより

令和7年2月4日
千葉市立作新小学校
校長 金谷 英味

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたかく たくましい」子どもの育成

暦の上では、もう春です

今年は節分が2月2日で立春が2月3日でした。ほとんどの年が2月3日が節分、2月4日が立春となっていますが、太陽の進行と地球の位置関係にずれが生じ、日にちが変動するそうです。

皆さんのご家庭では、節分にちなんで何か特別なことは行いましたでしょうか？私が子供の頃は、節分の日の夕方になると、家々から「鬼は一そと、福は一うち」と声が聞こえ、翌朝、登校するときには、アスファルトにいくつもの豆を発見し、数えながら歩いたものです。先日まで校長室前の廊下に、節分にちなんだ掲示をしていました。子供たちは、時折立ち止まって、それを見ながらいろいろとつぶやいていました。その声に誘われて、私が校長室から顔を出すと、まるで鬼が出てきたかのような驚き声を上げる子供に、つい、大笑いして楽しんでいました。

【子供のかわいいつぶやき】

- ・「鬼って、何に出てくるんだっけ？」 「鬼滅（アニメの）でしょ。」
→ ここでの鬼はそういう鬼ではないのだけどなあ。まさに現代版です。
- ・「何食べるのかなあ？人を食べるんだよねえ？」 「えっ、豆でしょ！だって豆まくじゃん！」
→ いやいや、それは違いますよ。
- ・「『鬼の苦手なもの、なーんだ』って書いてあるけど、何かなあ？」
「豆でしょ。あとはわかんない。雷？」
→ 絵の中に全て書いてありますよ。
- ・「『あなたの中にある追い出したい鬼は何かな？』だって。中にある鬼ってどういう意味？」
→ わかりにくくてごめんね。自分が直したいと思っている習慣やくせ、考え方のことです。

節分の日に、自分の中の「鬼」とは何だろう？「福」とはどのような状態のことだろう？と考える機会にしてもらいたいです。特に「福（その子の長所も含む）」については、見つめる機会が少ないように思います。「無い」ことではなく、「ある（恵まれている）」ことに目を向けられる子供であってほしいと願っています。ご家庭でも家族が考える「福」について語り合ってみるのもよいのではないのでしょうか？

日本各地で、多様な節分の日の行事が行われています。それぞれに意味が込められており、素敵だなあと感じます。日本の季節ごとの風習や、行事に目を向けさせられるように学校でも工夫していきたいと思っています。給食も栄養教諭が季節の行事に合わせた献立を工夫して、提供しています。コーンフレークを衣に加えて揚げたいわしは絶品でした。

